

8 August 2013 第712号 平成25年8月11日発行 毎月1日発行

さがわ

[広報] Public Relations SAMEGAWA

特集 さめがわの滝・溪流を巡る
涼を求めて



さがわ
Public Relations SAMEGAWA

8 August 2013

平成25年8月11日発行（毎月1日発行）
第712号（昭和27年9月創刊）

発行／福島県郡山市 編集／郡山市役所企画課
〒963-8401 福島県郡山市大子町中子新田 39番地 5

金婚を迎えたご夫婦を紹介



半世紀の
Episode_05 歩み

岡部勝正さん 高子さん
青生野字大平在住／昭和37年12月結婚

お互い青生野出身なので顔は知っていましたが、話したことはありませんでした。世話人がいて、それがきっかけです。

これまでの結婚生活の思い出のようなものはたいしてありません。仕事ばかりで旅行などに行く時間はありませんでしたから。家では農業や炭焼きをやり、共同で養蚕や牧草地

の管理などもやっていたので、雨が降ろうが雪が降ろうが、休みはありませんでした。

今は、たまにお湯入りに行ったりして無理をしない程度に仕事をしています。子どもたちとの旅行や趣味の山登りを楽しみながら、健康に気を付けてこれからも夫婦円満に過ごしていきたいです。 [談]

こちら 村長室

▼八月十五日、今年もまた終戦記念日を迎えます。多くの方の尊い命の上に今

の幸せがあることに深く感謝し、先人に思いを馳せたいと思います。▼暑い今年の夏に、作家・百田尚樹の「永遠の0（ゼロ）」に出会いました。「生きて、必ず生きて帰る。妻の元へ、娘の元へ」。そう言い続けた男が零戦に乗り命を落としました。十五歳から二十六歳までの十一年間を軍隊に捧げ、後半の八年間はパイロットとして戦い続け、最後には特攻で死に迫いやられてしまいます。戦闘機乗りとして凄腕を持ちながら異常なまでに死を恐れ、生きることに執着した零戦パイロット。生き残りをかけて空中戦に挑んだ彼が一体なぜ終戦直前に特攻を志願したのでしょうか。彼は臆病者でも卑劣者でもありませんでした。いかにすてきな人であったかが読む人の心に迫ってくる感動の書でした。

大樂勝弘